

地域鉄道の存続に向けた国の更なる支援を求める意見書（案）

地域鉄道は、通勤や通学等、日常の移動手段として沿線地域の人々の暮らしを支えるとともに、産業や観光など地域振興にも資する重要な交通機関である。とりわけ、本県では、2024年春の北陸新幹線福井・敦賀開業を控え、地域鉄道には開業効果を県内に広く波及させるための二次交通としての役割が期待されている。

一方、モータリゼーションや少子高齢化・人口減少の進行により、全国の地域鉄道の大半が厳しい経営を強いられており、利益の高い路線からの内部補助や、国や県、沿線市町等による支援により辛うじて存続しているのが実情である。そうした中、コロナ禍による利用者の減少が地域鉄道の経営悪化に拍車をかけ、事業者の経営努力だけでは立ち行かない状況となっており、このままでは、将来の地域鉄道の維持・存続が困難となることが懸念される。

地域鉄道は、高齢者など交通弱者の移動手段の確保、環境負荷の低減、人々の交流促進等、収支採算性のみでは測れない便益を有している。

国においては、地域の社会的インフラである鉄道が、持続可能な社会の実現や地域の活性化に果たす役割に鑑み、将来に渡り安定して事業を継続し、存続が図られるよう、国を始めとする行政の役割や財政支援の在り方について早急に検討するとともに、法整備等も含め、必要な対策を講じるよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年7月9日

福 井 県 議 会